

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
ふるさと鳥栖に誇りをもち「学び合い、支え合い、高め合う生徒の育成」	①学力向上 ②いじめ未然防止 いじめ見逃し0 ③自己肯定感を高める生徒指導体制・相談体制 ④保護者・地域に信頼される学校 ⑤職員の服務規律の保持及び健康管理、交通加害事故撲滅 ⑥勤務時間を意識した働き方改革

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
①学力向上						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●学力向上	「授業づくりのステップ123」に沿った授業づくり	・12月に行われる佐賀県小中学校学習状況調査において、1年生の国語及び数学については、各領域で4月の結果を上回る。他の3教科については、佐賀県の平均を上回る。2年生については、全ての領域において「おおむね達成」を上回る。	・年度当初に学習規律を身に付けさせる必要があるため、「学習の約束」を各教室に掲示し徹底を図る。 ・「主体的・対話的で深い学び」を念頭に、基礎基本の習得、課題解決のための活用する力、主体的な学習態度を意識した授業づくりを「授業づくりのステップ1・2・3」を活用して行う。	研究推進委員会	主幹
	●学力向上	ICT利活用	・教師アンケートで、授業においてICT機器を活用している割合80%以上を目指す。	・わかりやすい授業や効果的な学習の手立てのために、積極的に電子黒板、デジタル教科書、ICT機器の利活用に取り組む。 ・ICT機器活用の研修会、公開授業について積極的に紹介し、年に1回以上の参加を促す。	研究推進委員会	小田
	●学力向上	教科「日本語」の推進	・生徒アンケートで、教科「日本語」の授業で日本の伝統文化や礼儀作法のよさについて理解したと答える割合が80%以上になるようにする。	・教科「日本語」の授業を小中一貫教育の柱として位置付け、研究テーマを踏まえた指導で各学年で計画的に行う。	研究推進委員会	宮村
	●学力向上	家庭学習の充実	各教科で準備した課題の取組を毎日行う。	・県教委発行の「家庭学習の手引き」を活用し、生徒・保護者への啓発を行う。 ・課題の効果的な活用方法を提示し、家庭学習の定着を図る。	研究推進委員会	主幹
	○小中一貫教育	鳥栖小学校・鳥栖北小学校との連携	・教科「日本語」を柱とした小学校との連携を深める。	・定期的な会議を開催し、生徒と児童間の交流、教師間の交流の場を設定していく。 ・三校の教師全員の研修会を開催する。	研究推進委員会	主幹
②いじめ未然防止、いじめ見逃し0						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●いじめの問題への対応	毎月10日「いじめ・いのちを考える日」の取組	・毎月10日の「鳥栖市いじめ・いのちを考える日」にアンケートを実施する。また、学期に1回は持ち帰りのアンケートを実施し、書きやすい場でじっくり考えて書く時間を設定する。 ・SNSでのトラブルがいじめにつながるケースが多いことから、情報モラルに関する講話やアンケートを学期に1回は実施する。	・アンケートの内容を見直し、より生徒の実態を把握できるよう改善する。 ・警察署等、関係機関と連携を図り、生徒を対象とした「スマホ・ケータイ安全教室」等のSNSにおけるトラブル予防のための講演会を実施する。	生徒指導	小副川
		いじめの未然防止と早期発見のための取組の徹底	・教育相談、人権教育との連携、充実を図り、未然防止に努める。 ・早期発見のための体制作りを強化する。	・人権週間の取組や道徳の授業の充実を図り、いじめを許さない集団作りを目指す。 ・いち早く生徒の変化に気付く感性を持ち、早期発見できる生徒指導体制の充実を図るとともに、授業や学級経営等での日頃の実践や悩みを気軽に話し合える教職員間の連携を図る。	生徒指導	小副川
	○人権教育	人権・同和教育の充実と啓発活動の推進	・教師全員が、年1回以上の人権・同和教育に関する職員研修を受け、研修の内容をふまえた生徒の人権意識向上のための授業改善を行う。 ・生徒の人権意識を向上させるために、人権放送や標語の作成などの啓発活動を年3回以上行う。	・人権意識を高めるために人権・同和教育に関する研修を受け、年間計画に沿って社会科や道徳の授業を行う。 ・思いやり標語やいじめ防止標語、人権作文を作成する。また12月の人権週間には人権放送を行い、生徒の人権意識を高める啓発活動に取り組む。	人権・同和教育	末永
③自己肯定感を高める生徒指導体制・相談体制						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	学級・学校行事での支持的風土づくり	・各教科等・領域を通して、全ての生徒が称賛される機会をもつことができる場を設定する。	・Q-Uテストを実施し、生徒の実態を把握する。 ・個々の生徒を賞賛する記事や、友達の良いところを学年・学級通信や掲示物で紹介する。 ・生徒の実態把握や支援、その後の経過などについて、全職員で共有しながら生徒が輝く場や認め合う活動をつくる。 ・心の成長につながる道徳教育を推進する。	道徳教育	高島
	●心の教育	教育相談の充実	・学期に1回は、教育相談週間及びソーシャルスキルに関わる取組を学年または学級で行う。	・教育相談については、生徒が安心して相談できるように、時間の確保や事前アンケートの実施などの手立てを取る。 ・学級活動の中で、相手に嫌な思いをさせないで自分の意見を主張したり、相手の申し出を断ったりするトレーニングの機会をもつ。 ・「出番・役割・承認」の場面を意図的に設け、共感的な人間関係を意識した学級経営を行う。 ・クラスの実態に応じて、ストレスマネジメントなどの授業を組み込んでいく。 ・教育相談担当がソーシャルスキル授業一覧を作成し、全職員に紹介する。	教育相談	草野
	○生徒指導	不登校及び不登校傾向の生徒に対する指導の充実	・一人一人の状況に応じた対応を行い、複数で対応する仕組みを構築することにより、不登校生徒の減少を図る。 ・新たな不登校生徒を出さないための未然防止に努める。	・中1ギャップを最小限にとどめるように小学校との連絡を密にし、相談体制をきめ細やかにする。 ・教室には入れない生徒や欠席の続く生徒には、担任、加配教員、スクールカウンセラー等でケース会議を開き、チームを組んで対応する。 ・気になる生徒や不登校(傾向)生徒について、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーや関係職員と連絡会を毎週実施する。またチームで支援していくために、ケース会議を行っている。	生徒指導	小副川

④保護者・地域に信頼される学校						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
学校運営	○開かれた学校づくり	学校運営の状況に関する積極的な情報提供の推進	・PTA活動へ積極的な関わりをもつ。 ・外部の意見を聞く機会を増やす。 ・ホームページの更新やマチコミの活用により、地域、保護者が必要な情報提供を行う。	・「生徒が『この学校で学んでよかった』と思う学校」を保護者や地域の方々に浸透させるため、積極的に地域に出向き繰り返し説明する。 ・フリー参観を年に2回実施し、参加者を増やす。 ・学校評価アンケートや参観日のアンケートを実施する。 ・PTA活動に職員も関わりをもち、保護者との関係づくりに努める。 ・ホームページの学校からのお知らせや行事予定等を1ヶ月に1回は更新する。	管理部	教頭
⑤職員の服務規律の保持及び健康管理、交通加害事故撲滅(非公開項目)						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	運転・職務遂行スタイルの見直し	・体罰・ハラスメント、及び交通加害事故を0にする。	・他校等の事例について「自分のこととして考える習慣」の徹底を繰り返し図っていく。 ・日ごろから自分の運転スタイルや職務遂行のスタイルの振り返りをする。 ・事故・事案発生時に備えて、管理職は全職員の連絡先を把握し、全職員は管理職の連絡先を記録し、時刻に問わず報告することを徹底する。 ・体罰やハラスメントについては、高い意識を保つために職員研修を実施する。 ・「体罰0ハラスメント0」を目標に職務にあたり、発生時は報告・連絡・相談・確認を徹底する。 ・教育公務員としての言動について、謙虚に自分を見つめなおす機会をもつ。 ・「ゼロの日」を計画的に進める。	管理部	副校長
⑥勤務時間を意識した働き方改革						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	部活動の在り方に関する方針の周知・実施と見直しをもった職務遂行	・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、部活動など、教職員の時間外勤務について1か月当たり前年度比10%削減する。	・部活動の在り方に関する方針の周知のため、保護者会代表等やPTA総会での説明、各家庭への文書での周知を図る。 ・業務改善に係る教職員の意識改革を図る。 ・公務サーバー上で各分掌が情報共有を行いやすいように、フォルダ構成を工夫する。 ・各教職員の勤務時間を確実に把握するとともに、特定の教職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。	管理部	教頭
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分 掌(部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の育成	・「早寝、早起き、朝ご飯」を奨励し、朝食をとって登校する生徒の割合を昨年度(93%)より増やす。	・保健便りやPTA新聞等を通して、朝食を摂ることや23時までの就寝、7時までの起床の意義の理解と啓発を行う。 ・朝食をとらずに登校する生徒を把握し、生徒及び保護者に対する個別の手立てを行う。	給食・食育担当	田崎
	●志を高める教育	目標に向かって、自ら学び、自ら考える生徒の育成	・生徒アンケートで、学習や様々な活動において目標を持ち主体的に取り組むことができた割合80%以上を目指す。	・学習や行事などの活動において、生徒が自らの能動的な行動でこの学校で学んでよかったと思えるような手立てを取る。 ・職場体験学習や実社会に即した話を聞く場を設けるなどキャリア教育の充実を図る。	進路指導	黒田達